

ともに学ぶ力・深く学ぶ力を育む 内容構成の工夫

章・節の学習を見通す「導入ページ」 p.48-49

章・節の学習を見通す導入ページ。新鮮な驚きを覚えるような写真から生徒の興味・関心を喚起します。学習内容についてイメージを膨らませることができる写真中心のページで、学びのきっかけを作ります。

1 アジア州

学習テーマ アジアでは、なぜ経済が発展したのだろうか。



この節では、アジアのさまざまな地域の特色を地域ごとに大きくとらえながら学習を進めていきます。経済が発展していくことにより、暮らしにどのような変化があらわれてきたのでしょうか。多様なアジアの経済発展に着目して、アジアの特色を学習しましょう。

48 第2章 世界の諸地域 ① アジア州

49

1 導入ページ

アジアで学習する地域の課題 ●人口問題

世界中で人口をめぐり、さまざまな問題が起こっています。中国では人口が多いことが問題となり、それを解決するために人口を抑制する政策が進められてきました。また、高齢化が進む国もあり、各地でどんな人口問題があるのか、考えていきましょう。

次の 章へ

章の 流れ

見通し・振り返りの学習活動に取り組みやすい内容構成

内容のまとまりごとの見通し・振り返りの学習場面をいっそう充実させ、主体的・対話的で深い学びを実現しやすい構成にしました。一連の学習活動を通じて、より深い理解を促すことができます。

学習のまとめと表現の流れ

ワードチェック

地図を使って確かめよう

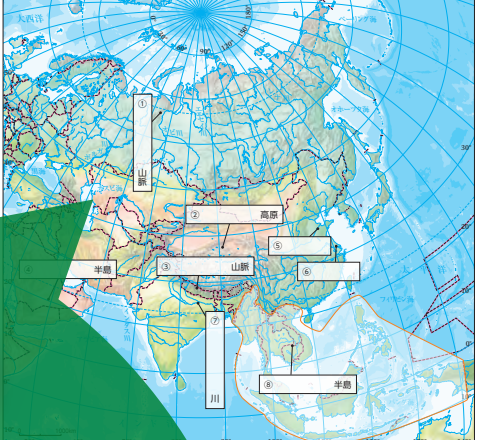
表現しよう

意見を交換しよう

章・節の学習を振り返る 「学習のまとめと表現ページ」 p.65

章・節の最後に設けられて、学習内容が身についたかをチェックできると同時に、基礎・基本の定着が図れます。学習の振り返りとして、語句のチェック、地図上の場所や位置の確認、自分の言葉でまとめて表現する活動、意見を交換する活動を行い、段階的に学習を深めていくことができます。

学習のまとめと表現 アジア州の学習を振り返って整理しよう



①次につづいてアジアで学習してきた言葉が説明できたら、□に印を入れよう。

- 植民地
- 発展途上国
- 季節風(モンスーン)
- アジアNIES(新興工業経済地域)
- 「一人っ子政策」
- 少数民族
- シルクロード
- 経済特区
- プランテーション
- 東南アジア諸国連合(ASEAN)
- 穀倉地帯
- 情報通信技術(ICT)産業
- 産油国
- 石油輸出国機構(OPEC)
- レアメタル

②【アジアの産業】中をあげてみよう。

③【アジアの工業】 稲作と工業の発展について、それぞれ特色をまとめよう。

④【日本との関係】 サウジアラビアと日本の貿易について調べて、50字以内でまとめよう。

⑤意見を交換しよう。

※アジア各地について、なぜ経済が発展したのかを調べて、特徴をまとめよう。また、その結果をもとに、経済発展に欠かせないものは何か、話し合ってみよう。

学習のまとめと表現 65

5 変わる産業と貿易

学習課題 東南アジア各国の人々の暮らし

見通しを示す「学習課題」これから1時間の学習で何について追究していくのかを明確にします。

確認! 東南アジア諸国連合の加えて、表にまとめよう。

表現! 資料4を参考に、輸出からどのように人々の暮らしが変化したか、まとめよう。

「確認」: 本時で学習したことを確認し、整理します。
「表現」: 学習したことを活用し、自分の言葉で表現することから、深い学びを導きます。



⑤ 変わる産業と貿易 結びつきを強める東南アジア

学習課題 東南アジア各国の人々の暮らしは、経済発展によってどのように変わってきたのでしょうか。

1980年

2016年

東南アジアの輸出の増加

東南アジアの輸出の増加

2 「本時ページ」 p.58-59

見開き2ページ=1時間の構成で、見開きごとに「学習課題」(学習の見通し)と、「確認/表現」(振り返り)を設け、生徒の主体的な学習を促します。

2 本時ページ



2 本時ページ

東南アジアの輸出の増加

東南アジアの輸出の増加

3 特設ページ

シンガポールはいま 熱帯にある都市国家

シンガポールは、東南アジア諸国連合(ASEAN)加盟国の中で第一の経済力をもち、東南アジアの貿易・金融の拠点として、世界から注目を集めています。世界の人々や企業が注目するシンガポールの魅力とは何か、考えてみましょう。

世界都市シンガポール

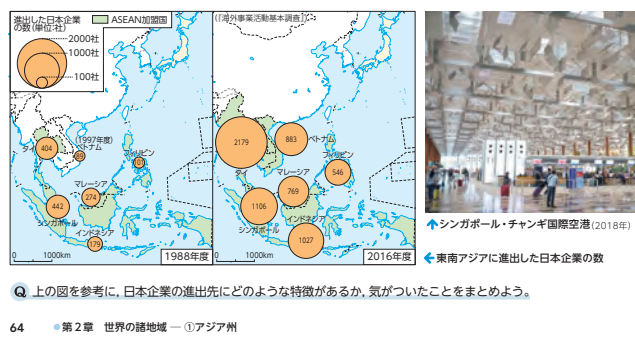
シンガポールは、東京23区と同じくらいの面積の国土に約580万人(2018年)が暮らす都市国家です。東南アジアの貿易・金融の拠点として成長を続け、国民一人当たりの国内総生産(GDP)は日本を上回っています。イギリスや東南アジア諸国のみならず、世界の諸地域と緊密な関係を維持してきた結果、世界の他の都市に比べて人口規模は小さいものの、世界から注目される世界都市へと成長しました。2018年6月には、シンガポール南部のセントーサ島のホテルで、史上初のアメリカ合衆国と朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)の首脳会談が開催され、シンガポールの存在感を示すとともに国際政治でも世界の注目を集めました。

空港がもたらす発展

シンガポールの玄関口であるチャンギ国際空港は、東南アジアの拠点となる空港です。世界の多くの都市と航空路でつながり、設備・サービスの質の高さから世界有数の快適な空港として、多くのビジネスマンや観光客の注目を集めています。人が多く集まり、産業が集積している都市には、さらに多くの人や企業を引き寄せる吸引力があるため、国や都市の発展にはこのような空港が重要な鍵となります。

観光大国

シンガポールには、治安のよさや、移民社会特有のエキゾチックな異文化体験といった多様な魅力があり、外国人観光客が増加しています。この外国人観光客の増加に大きく貢献したのが、統合型リゾート(UR)とよばれる、カジノやリゾート施設、劇場・サービスなどの高層ビルを有する複合施設です。マリナベイ・サンズやリゾント・ワールド・セントーサなどは多くの国の観光産業のモデルとなっており、今後も多くの企業と連携した観光発展が期待できると、世界から注目が集まっています。



シンガポール・チャンギ国際空港(2018年)

東南アジアに進出した日本企業の数

視点を变えて 学習内容を捉えなおす 「特設ページ」 p.64

世界地誌(世界の各州)や日本地誌(日本の7地方)の学習の事例を基に、さらに一歩進んで、今日的な課題に迫る特設ページを設けました。個人またはグループで学習を深めることができます。ページ最後に設けた「Q」も学習を深めるのに役立ちます。

2 思考・判断・表現する場面を位置づけた、学習の流れがわかりやすいページ構成

見開き2ページ＝1時間の授業展開で学習の見通しを立てやすい、本文と資料のバランスを考えた紙面です。生徒が自ら学べるよう、資料を読み解く手がかりも示しています。

1 1時間の学習を見通す「導入」

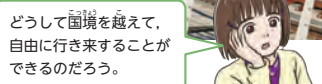
生徒の興味・関心を高め、学習のきっかけとなる写真・地図などを導入に位置づけました。
キャラクターの言葉や「**LOOK!**」は、導入資料をサポートします。

キャラクターの言葉

導入資料の見方のヒントになります。

LOOK!

導入資料を解説することで、先生の授業を助け、生徒の自学自習にも役立ちます。



LOOK!

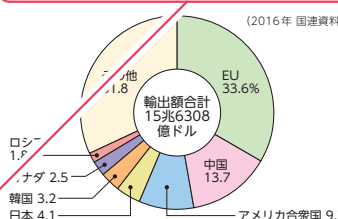
国境には通常は検問所があり、パスポートがないと隣の国に行くことができません。しかし、ドイツとフランスの間では人々が自由に行き来しており、国境を越えて毎日通勤している人もいます。隣の国のスーパーの品物のほうが安い時には、気軽に買い物に出かけます。

2 ヨーロッパの統合とその課題 ▶ 人やものの自由な移動

学習課題 統合が進むことで、ヨーロッパの人々の生活にどのような変化が起きているのでしょうか。

1958年	ヨーロッパ経済共同体(EEC)発足
1967年	ヨーロッパ共同体(EC)発足
1993年	ヨーロッパ単一市場発足 ヨーロッパ連合(EU)発足
1995年	域内での人の移動の自由化
1999年	単一通貨ユーロの導入
2002年	ユーロ紙幣・硬貨の流通開始
2004年	EU拡大、加盟25か国に
2007年	EU拡大、加盟27か国に
2013年	EU拡大、加盟28か国に
2016年	イギリスが国民投票によりEU離脱を選択

3 ヨーロッパの統合の歴史



4 世界の貿易に占めるEUの割合

2 学習課題

学習内容を自分事としてとらえる

タイトルには、学習内容についてイメージを膨らませる**主題**、学習事項を端的に示した**副題**を明示しました。
学習課題では、この1時間の授業の見通しをわかりやすく示し、学習意欲を高めます。

資料番号 1, 2, 3 ...

本文と資料の関連を番号で示しています。本文を読みながら資料を結びつけることができ、学習が深まります。

3 読んでわかる、授業しやすい「本文」

読みやすく、わかりやすい文章で、生徒の社会的現象への理解を深めます。生徒が「わかる」記述は、授業中はもちろん、自ら学ぼうとする場面でも、基礎・基本の定着にも役立ちます。

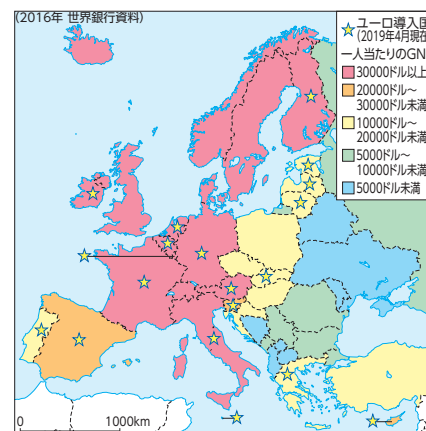
4 読み解こう

思考・判断・表現する力を育む「読み解こう」

本文の流れに即し、資料を丁寧に読み解きながら考察する学習を重視しました。写真・地図・グラフなどの多様な資料の読み解きについて、問いを手がかりに取り組むことができ、資料を活用して考え、まとめる力の養成に役立ちます。

読み解こう

- EU加盟国とそれ以外の国の、一人当たり国民総所得の違いをまとめよう。
- EU加盟国の中で、一人当たり国民総所得が低い国は、どの地域に多いか書き出して、気づくことをあげよう。



5 EUと周辺各国の一人当たり国民総所得

由に国境を越えることができます。また、多くの国ではEUの共通の通貨である**ユーロ**が使えるため、国境を越えた買い物や旅行がとても便利になりました。さらに、加盟国からの輸入品にかかる税金をお互いになくしたことにより、EU内の貿易も活発になっています。

移動する人々と地域格差

西ヨーロッパほど経済的に豊かでない東ヨーロッパの国々が加盟したことにより、EUの中での経済的な地域格差が問題となっています。西ヨーロッパの先進国などから東ヨーロッパへと、企業が進出していますが、いまだに西ヨーロッパの国々との間には大きな所得の格差がみられ、高い賃金が得られる西ヨーロッパの国々に多くの人が働きに出ています。そのため、西ヨーロッパの主な都市では、東ヨーロッパなどから国内に流入する人々が増えたことにもともない、失業する人も多くなっており、EUの統合に反対する人々もいます。

地理の窓 イギリスのEU離脱問題

西ヨーロッパの先進国は、EUの活動のために多くの資金を出しています。それらの資金を使ってEUの中の開発が行われている国々への経済的な支援が行われてきました。そのため、これらの先進国では、自分たちの国の出したお金が他国

のために使われることに反対する人々が増えています。例えば、イギリスでは2016年の国民投票でEUからの離脱が決まり、現在もEUとの間で離脱のための話し合いが続けられています。

6 空港のパスポートチェック(2017年 ポルトガル・リスボン)

EU加盟国の人々には専用の出入口があり、検査を受けずに入国できるので、長い行列に並ぶ必要がありません。



読み解こう

- EU加盟国とそれ以外の国の、一人当たり国民総所得の違いをまとめよう。
- EU加盟国の中で、一人当たり国民総所得が低い国は、どの地域に多いか書き出して、気づくことをあげよう。



7 ユーロ紙幣と硬貨

確認 ヨーロッパで各国が協力する動きを強めた理由を書き出そう。

表現 統合が進み、国境を越えた交流が広がることについて、長所と短所をまとめよう。

5 本時の振り返りとして、②の学習課題と対応させた「確認」と「表現」

この時間で学習したことを基に、「**確認**」では基礎的な事項の確認と整理、「**表現**」では地理的事象や課題などに関わる説明や話し合いなどの表現活動と、段階的に振り返りながらまとめることができ、学習が深まります。

確認

本時の学習の中で、重要な語句などに着目しながら、基礎的な事柄をしっかりとおさえます。

表現

本時の学習を振り返り、言葉で表現したり、対話したりすることで深い学びにつなげます。

6 関連 地理だけでなく、歴史・公民との関連ページを示した「関連」

地理の学習内容について、他ページでの学習との関連を表示することはもちろん、歴史的分野・公民的分野についても関連する箇所を示しました。他分野との関連箇所を意識させることで、学びがつながっていることに気づき、本時の学習がより深まります。(→本資料p.14～15参照)

2 社会的な課題を多面的・多角的にとらえ、考察することができる教材・内容

生徒が、現代や過去の社会的事象について、資料を的確に活用しながら多面的・多角的に考察することができ、情報を批判的に読み解いて公正に判断する力を養えます。

地理的分野とSDGs（持続可能な開発目標）

世界地誌の学習 (p.47-128) では、章の導入ページで、州ごとの主題とともに、**SDGs（持続可能な開発目標）**の17の目標と関連する特徴的な**地球的課題**を扱うことを示しています。例えば、北アメリカ州の学習では、導入ページ (p.92-93) で「北アメリカで学習する地球的課題」として、「**多民族の共存の問題**」を取り上げ、該当ページ (p.100, 102-103) を示して導き、SDGsも意識しながら学習がより深まるように工夫しています。

地球的課題とSDGs

あなたは、SDGsを知っていますか。SDGsとは、2015年に国連で採択された、2030年までに国連全加盟国が達成するために掲げた目標のことです(**Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標**)。人間、地球そして繁栄のための行動計画として、次に示した17の目標などで構成されています。

あなたは、SDGsを知っていますか。SDGsとは、2015年に国連で採択された、2030年までに国連全加盟国が達成するために掲げた目標のことです(**Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標**)。人間、地球そして繁栄のための行動計画として、次に示した17の目標などで構成されています。

また、地理的分野では、「第2編 世界のさまざまな地域」の「第2章 世界の諸地域」において、六つの各州で**地球的課題**を取り上げます。取り上げられた地球的課題が、SDGsに示された17の目標の中の何と関係するか、考えていきましょう。

◀ p.IV

〈地球的課題・ラインナップ〉

- ◇人口問題(アジア州) p.54-55
- ◇環境問題(ヨーロッパ州) p.76-77
- ◇人口・食料問題(アフリカ州) p.87-89
- ◇多民族の共存の問題 (北アメリカ州) p.100,102-103
- ◇環境・都市問題(南アメリカ州) p.111-115
- ◇多民族の共存の問題 (オセアニア州) p.121,123-125

4 北アメリカ州 学習のポイント 北アメリカでは、なぜ先発的で多様な産業が発達したのだろうか。

この図では、産業や国連など、さまざまな面で世界の世界をリードしている北アメリカについて学習しています。アメリカ合衆国の社会や経済が、どのような発展を経て世界をリードするようになったのでしょうか。さまざまな産業が盛んな理由に着目して、北アメリカの特色を学習していきましょう。

4 北アメリカ州で学習する地球的課題 ●多民族の共存の問題

アメリカ合衆国とカナダは、これまで世界から移民を受け入れ、多様な民族からなる社会をつくり上げてきました。民族や文化の多様性は、独自の新しい文化を生み出すとともに、社会や経済に活力を与えます。一方で、両国は建国以来、これにもなる問題も抱えています。ほかの国でも、差別や格差、少数派の人々の地位の向上など、多民族が共存するために解消しなければならない問題を抱えています。

4 北アメリカで学習する地球的課題 ●多民族の共存の問題

アメリカ合衆国とカナダは、これまで世界から移民を受け入れ、多様な民族からなる社会をつくり上げてきました。民族や文化の多様性は、独自の新しい文化を生み出すとともに、社会や経済に活力を与えます。一方で、両国は建国以来、これにもなる問題も抱えています。ほかの国でも、差別や格差、少数派の人々の地位の向上など、多民族が共存するために解消しなければならない問題を抱えています。

▲ p.92-93

領域をめぐる問題

見開き4ページを配当し、日本の領域に関する基礎的な学習から、北方領土、竹島、尖閣諸島といった日本の領土をめぐる対立や現状についてしっかりと学べるように、多彩な資料と丁寧な記述で理解を深めます。

日本の国土の広がりから

日本の領域の特徴をとらえ、**領土・領海・領空**の区分など、基礎的な知識をコンパクトに学習します。【p.22】



日本の国境をめぐるさまざまな動きを学習します

北方領土、竹島、尖閣諸島については、これまでの動きや現状について豊富な写真資料とともに記述しています。地図についても位置関係がとらえやすいように、日本海を中心に描いたものを掲載しました。【p.25】



のびやかな交流など民間での友好的な結びつきは続いています。

竹島周辺では、江戸時代の初めから日本人が漁業を行っていました。1905年に政府は、竹島を国際法に基づき島根県に編入し、日本固有の領土としました。

1952年以降、韓国が竹島を自国の領土として主張し、現在まで不法に占拠し続けています。日本はこれに抗議を重ねるとともに、国際社会の場での話し合いを提案していますが、韓国は受け入れていません。

尖閣諸島は、1895年に沖縄県に編入された日本固有の領土です。第二次世界大戦後には、アメリカ合衆国の施政の下に置かれていましたが、1971年に沖縄返還協定が結ばれ、翌年日本に復帰しました。尖閣諸島は、アメリカ合衆国の施政の下にあった期間を除いて日本が領有し、有効に支配を続けてきました。しかし、1970年代から、周辺海域に埋蔵されているとされる資源をめぐる、中国が領有を主張し始めました。近年、中国船が尖閣諸島周辺の日本の領海や接続水域にたびたび侵入する事態が生じ、

領土をめぐる対立については、武力衝突や戦争の原因となることもあります。各国が冷静に問題に向き合い、対立を乗り越えて平和的な解決を目指すことが重要です。

領土をめぐる対立については、武力衝突や戦争の原因となることもあります。各国が冷静に問題に向き合い、対立を乗り越えて平和的な解決を目指すことが重要です。

領土をめぐる対立については、武力衝突や戦争の原因となることもあります。各国が冷静に問題に向き合い、対立を乗り越えて平和的な解決を目指すことが重要です。

領土をめぐる対立については、武力衝突や戦争の原因となることもあります。各国が冷静に問題に向き合い、対立を乗り越えて平和的な解決を目指すことが重要です。

領土をめぐる対立については、武力衝突や戦争の原因となることもあります。各国が冷静に問題に向き合い、対立を乗り越えて平和的な解決を目指すことが重要です。

領土をめぐる対立については、武力衝突や戦争の原因となることもあります。各国が冷静に問題に向き合い、対立を乗り越えて平和的な解決を目指すことが重要です。

領土をめぐる対立については、武力衝突や戦争の原因となることもあります。各国が冷静に問題に向き合い、対立を乗り越えて平和的な解決を目指すことが重要です。

領土をめぐる対立については、武力衝突や戦争の原因となることもあります。各国が冷静に問題に向き合い、対立を乗り越えて平和的な解決を目指すことが重要です。

領土をめぐる対立については、武力衝突や戦争の原因となることもあります。各国が冷静に問題に向き合い、対立を乗り越えて平和的な解決を目指すことが重要です。

領土をめぐる対立については、武力衝突や戦争の原因となることもあります。各国が冷静に問題に向き合い、対立を乗り越えて平和的な解決を目指すことが重要です。

領土をめぐる対立については、武力衝突や戦争の原因となることもあります。各国が冷静に問題に向き合い、対立を乗り越えて平和的な解決を目指すことが重要です。

領土をめぐる対立については、武力衝突や戦争の原因となることもあります。各国が冷静に問題に向き合い、対立を乗り越えて平和的な解決を目指すことが重要です。

領土をめぐる対立については、武力衝突や戦争の原因となることもあります。各国が冷静に問題に向き合い、対立を乗り越えて平和的な解決を目指すことが重要です。

領土をめぐる対立については、武力衝突や戦争の原因となることもあります。各国が冷静に問題に向き合い、対立を乗り越えて平和的な解決を目指すことが重要です。

領土をめぐる対立については、武力衝突や戦争の原因となることもあります。各国が冷静に問題に向き合い、対立を乗り越えて平和的な解決を目指すことが重要です。

領土をめぐる対立については、武力衝突や戦争の原因となることもあります。各国が冷静に問題に向き合い、対立を乗り越えて平和的な解決を目指すことが重要です。

領土をめぐる対立については、武力衝突や戦争の原因となることもあります。各国が冷静に問題に向き合い、対立を乗り越えて平和的な解決を目指すことが重要です。

領土をめぐる対立については、武力衝突や戦争の原因となることもあります。各国が冷静に問題に向き合い、対立を乗り越えて平和的な解決を目指すことが重要です。

領土をめぐる対立については、武力衝突や戦争の原因となることもあります。各国が冷静に問題に向き合い、対立を乗り越えて平和的な解決を目指すことが重要です。

領土をめぐる対立については、武力衝突や戦争の原因となることもあります。各国が冷静に問題に向き合い、対立を乗り越えて平和的な解決を目指すことが重要です。

領土をめぐる対立については、武力衝突や戦争の原因となることもあります。各国が冷静に問題に向き合い、対立を乗り越えて平和的な解決を目指すことが重要です。

領土をめぐる対立については、武力衝突や戦争の原因となることもあります。各国が冷静に問題に向き合い、対立を乗り越えて平和的な解決を目指すことが重要です。

領土をめぐる対立については、武力衝突や戦争の原因となることもあります。各国が冷静に問題に向き合い、対立を乗り越えて平和的な解決を目指すことが重要です。

領土をめぐる対立については、武力衝突や戦争の原因となることもあります。各国が冷静に問題に向き合い、対立を乗り越えて平和的な解決を目指すことが重要です。

領土をめぐる対立については、武力衝突や戦争の原因となることもあります。各国が冷静に問題に向き合い、対立を乗り越えて平和的な解決を目指すことが重要です。

領土をめぐる対立については、武力衝突や戦争の原因となることもあります。各国が冷静に問題に向き合い、対立を乗り越えて平和的な解決を目指すことが重要です。

領土をめぐる対立については、武力衝突や戦争の原因となることもあります。各国が冷静に問題に向き合い、対立を乗り越えて平和的な解決を目指すことが重要です。

領土をめぐる対立については、武力衝突や戦争の原因となることもあります。各国が冷静に問題に向き合い、対立を乗り越えて平和的な解決を目指すことが重要です。

領土をめぐる対立については、武力衝突や戦争の原因となることもあります。各国が冷静に問題に向き合い、対立を乗り越えて平和的な解決を目指すことが重要です。

領土をめぐる対立については、武力衝突や戦争の原因となることもあります。各国が冷静に問題に向き合い、対立を乗り越えて平和的な解決を目指すことが重要です。

領土をめぐる対立については、武力衝突や戦争の原因となることもあります。各国が冷静に問題に向き合い、対立を乗り越えて平和的な解決を目指すことが重要です。

領土をめぐる対立については、武力衝突や戦争の原因となることもあります。各国が冷静に問題に向き合い、対立を乗り越えて平和的な解決を目指すことが重要です。

領土をめぐる対立については、武力衝突や戦争の原因となることもあります。各国が冷静に問題に向き合い、対立を乗り越えて平和的な解決を目指すことが重要です。

領土をめぐる対立については、武力衝突や戦争の原因となることもあります。各国が冷静に問題に向き合い、対立を乗り越えて平和的な解決を目指すことが重要です。

領土をめぐる対立については、武力衝突や戦争の原因となることもあります。各国が冷静に問題に向き合い、対立を乗り越えて平和的な解決を目指すことが重要です。

領土をめぐる対立については、武力衝突や戦争の原因となることもあります。各国が冷静に問題に向き合い、対立を乗り越えて平和的な解決を目指すことが重要です。

領土をめぐる対立については、武力衝突や戦争の原因となることもあります。各国が冷静に問題に向き合い、対立を乗り越えて平和的な解決を目指すことが重要です。

EU統合の課題 —— 多様性をどう考えるのか

EUは、市場や通貨の統合を進め、現在28か国が加盟しています(2018年)。一方、統合するという目標の中で、分断独立を目指す国内の動き、大規模の移民の流入により、各国で考え方の違いも出てきています。統合することの難しさをしづいて考えてみましょう。

一つになることの難しさ

第二次世界大戦後、ヨーロッパでベネルクス三国(ベルギー、フランス、オランダ)が中心となり、経済だけでなく外交や防衛などにも広がり、国家をこえた結びつきを強めています。しかし、加盟国が増えるに従ってさまざまな問題が明らかになってきました。

スペイン・カタルーニャ州独立運動

スペイン北部、フランスと国境を接する場所にカタルーニャ州があります。カタルーニャ州の中心地バルセロナは世界遺産にも登録されるサグラダファミリア聖堂をはじめ、ガウディの建築物があるで、世界中から観光客が集まる都市です。また、オリンピックが開催された1992年以降は外国企業も集まり経済が急成長し、スペインを代表する豊かな国になりました。

豊かな国でありながら、なぜ独立運動が盛んになったのでしょうか。スペインという一つの国家には、地域ごとに異なる言語や文化をもつ人々が生活しています。例えば、カタルーニャにはスペイン語を話す人はいれば、独自の言語であるカタルーニャ語を話す人もいます。経済が落ち政府の財政が厳しくなると、カタルーニャ州の税収が他の地域に比べて、自分たちには使われないことへの不満が湧いてきました。カタルーニャ人は「それなら自分でしまおう」という気持ちになったようです。そして、投票の結果、独立宣言をしたカタルーニャ州に対し、憲法に違反しており無効であるとする政府との間の溝が深まってしまいました。また、独立しても税関に課税することは難しいと心配する声もありました。

ヨーロッパを揺るがす移民や難民の流入

第二次世界大戦後、経済発展をした国では労働者不足を補うために海外からの労働力を受け入れられました。「移動の自由」が認められている現在ではさらにその数を増やしています。また、内戦が続くシリアを中心にイスラム圏からの難民が大量に命をかけてヨーロッパにやってきました。ドイツをはじめヨーロッパ各国は、人道的な観点からも難民受け入れに積極的な姿勢を示しました。しかし、同じEU加盟国であっても移民や難民に対する考え方に違いがあります。例えば、治安に対する不安に注目が集まっています。さらに、外国人の文化を認めながら一緒に生活するのが、自分の国の文化に合わせた生活をさせるのか、EU加盟国による政策の違いも課題となっています。

カタルーニャ州が独立した場合、良くなることも悪くなることを予想しよう。

カタルーニャ州が独立した場合、良くなることも悪くなることを予想しよう。

「EU統合の課題－多様性をどう考えるのか」【p.80】

多面的・多角的な視点からとらえる

例えば「ヨーロッパ州(p.66-81)」では、EUを中心に「国々の結びつき」を扱いますが、一方でイギリスのような**EU離脱** (p.71「地理の窓」) などの動きや一国内に見られる**独立運動** (p.80特設ページ) などにも触れました。物事を一面的にとらえるのではなく、情報を批判的に読み解き、**多面的・多角的**に考察する力が身につくように、各所で工夫を凝らしています。